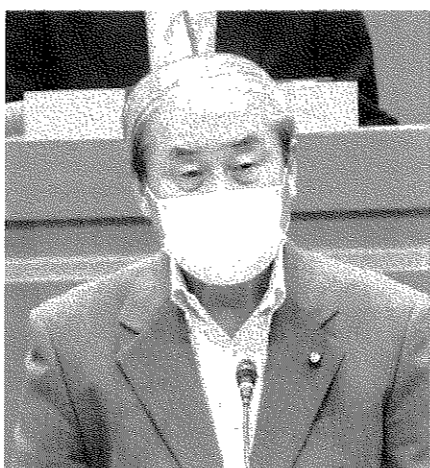


## 検査キット600個のうち10個だけ

大谷市議は新型コロナウイルス感染症の陽性者・罹患者への対応、教育や保育の現場での検査キットの活用状況、PCR検査キットや抗原検査キットの活用による検査体制の拡大について質問しました。

「陽性者は医療施設や宿泊療養施設に速やかに入院・入室出来たのか、また自宅療養者など外出できない世帯に対して食料など生活必需品の支援が出来たのか」と大谷市議は質問。

福祉保健部長は「県が入院か宿泊療養か自宅療養にするか、随時適切に判断している。



市内の自宅療養者は、県が非公表にしており、一時的にはいたが常態化はない。パルスオキシメーターは十分確保。自宅者に食料などは状況に応じて県職員がサポートしている」と答弁。  
**600キットの内10個活用**  
5月の段階で県から小中学校に280個、保育関係施設に320個の検査キットが配布されてきました。その活用状況について質問。

「県は居宅介護支援事業所への抗原検査キットは配布していない。配布すべき」と質問。  
部長は「通所系、訪問系の高齢者施設に県が8月に配布した。ケアマネ等への検査キットの配布については、前向きに考えている」と答弁。  
**PCRや抗原検査の大規模な活用が必要**  
感染防止にはワクチン接種とあわせて、PCR検査や抗原検査を大規模に行ない、無症状者を発見し保護することが必要です。市の考えを質問。  
部長は「PCR検査は頻繁に検査しないと効果がない。抗原検査キットは精度が高くないことや陰性判定でゆるみが出る可能性がある。ワクチン接種や病床確保に物的・人的資源を充てたい」と答弁。  
しかし大分市や別府市、宇佐市は無料の検査センターを設置しています。大分市や津市の商工団体は加盟店舗に抗原検査キットを無料で配布しています。」

# 検査キットほとんど活用せず

## パラペットや陸閘などを検討

大谷市議は、入江地区や徳瀬橋の災害復旧の取組について質問しました。

北友田3丁目入江地区は、昨年の豪雨で深いところで3m以上浸水しました。今だに具体的な対策について、地元には説明がありませんので住民は心配していました。大谷市議の質問に、土木建築部長は「7月に国、県、市で協議をして、筑後川本川からの流入対策案についての方向性を確認した。今後既存の樋管や排水路もあるため国、県

と連携し取組んでいく」と答弁。具体的なには国道に沿ってパラペトを設置し、増量した河川水の流入を防止するため市道に陸閘（開閉できる門）を検討しています。

### 徳瀬橋11月に工事着工

昨年7月に被災し1年以上通行止めとなっています。復旧の見通しについて質問。

部長は「補強する予定の橋脚基礎部分が洗掘されていることが再調査で判明したため、橋脚1基を新しく作り直すこと



# 入江地区の災害対策

北友田